



平成27年9月1日現在

総世帯数	7,278世帯
総人口	16,785人
男	8,348人
女	8,437人

暑かった今年の夏。

芳川地区では様々な催事が 元気に開催されました。

食育学級開催



芳川公民館と芳川保育園の共催の食育学級に15組の親子の参加があり、7

月30日晴天の中、子ども達も元気に収穫体験を行いました。収穫後は講師の先生にジャガイモを使った料理「ジャガイモサラダのクレープ包」の調理講習が行われ、調理後はみんなでおいしくいただきました。

参加者全員が楽しい時間を過ごしました。



▲三世代で作った青山様(長丘町)

報告編

▲青山様とほんぼん(長丘町)

『青山さまだいたい、ワッシヨイナラシヨ〜!』

法被姿の男児がかついでいる神輿は、祖霊がやどるといふ青い森を再現するため、松や杉の葉でおおわれています。青山さまは民俗信仰の一種ですが、長い間に子どもだけの社会がつくられ、以前、この日だけは夜おそくまで遊んでいたことになっていました。

江戸時代末期から続いている、ゆかた姿の女児がほおずき提灯をさげて歌い歩く『ほんぼん』。なぜ歌が哀調をおびているのかは、歌詞を文



▼元気いっぱい子ども神輿(小屋)



▲楽しい思い出になった今年の青山様・ほんぼん(美芳町)

字におきかえてみると納得できます。

『ほんぼんとでも今日明日ばかり、あさつてはお山(嫁の説もあり)のしおれ草…』

これもお盆に先祖の御霊をしずめる歌です。

この二つは松本市重要無形民俗文化財に指定されており、後世に残すべき、子どもの世界における貴重な民間信仰行事といえるでしょう。

また、今年芳川地区で行われたのは北原町、美芳町、長丘町でしたが、全国的にも珍しい「青山様」と「ほんぼん」。

いつまでも続く事を願っています。

隠し味で最高のカレー

トウモロコシの皮を剥いてくれたのは低学年の子ども達…結構チカラが必要で、上手にむけてトウモロコシを鍋で蒸かします。



芳川地区福祉ひろばと芳川地区社会福祉協議会の共催事業で「世代間交流会」が7月30日・31日・8月3日の3日間行われ、延べ230人の参加を頂きました。芳川児童センターや学童クラブの子ども達と地域のボランティアの方達が4つのグループになつてカレー作り。用意された4種類の隠し味(調味料)をグループ代表者がジャンケン。ゼリーも4種類味がジャンケンで勝ったグループから選べるとあつて代表者は責任重大。仲間から「ぶどう」「青りんご」と声の後押し。何が選べたかな。

調理は終了、仕上がり待つ間に牛乳パックを使った竹とんぼを作り。おもいおもいに個性的な絵をかき、世界に一つの竹とんぼ。飛ばした結果はいろいろですが、自分で作った竹とんぼに子ども達は満足顔でした。



公民館中にカレーの香りがしたら全員で昼食です。持ち寄ったご飯に自分達で作ったカレーをかけていただきます。隠し味でグループごと味が違うけど、みんなで作ったカレーは最高。

冷たくひやしたゼリーもおおいしかったです。

暑かった一日に……

ひとつの思い出が出来たのではないのでしょうか。



今年の夏も各町会手作りの夏祭りが開催 みんな楽しくおおいに賑わいました



▲松本山麓の片山真人さんを招いてのトーヨー(平田)

スイカ割りでは大人も子どもも大はしゃぎ(木工)



▲ヨーヨー風船(木工)



▲恒例の手作り流しそうめん(平田)

芳川地区マレットゴルフ大会

7月26日(日)に芳川地区マレットゴルフ大会がアルプス公園マレットゴルフ場で開催されました。猛暑の中、22名のプレイヤーは36ホールの熱い戦いを繰り広げ、男女上位4名の方が、10月に行われる松本市市民体育大会に芳川地区代表として出場します。

結果報告

男子

- 優勝 田水 邦夫さん
- 準優勝 小林 正弘さん
- 三位 腰原 光俊さん
- 四位 横田 守さん

女子

- 優勝 吉田 たけ子さん
- 準優勝 田中 英子さん
- 三位 草間 美恵子さん
- 四位 小林 史子さん

参加した皆さんお疲れ様でした。



小屋町第二公民館地鎮祭

8月2日(日)小屋町第二公民館新築の地鎮祭が執り行われました。南北に延びた集落で形成された小屋町会ですが、芳川公園に隣接する第二公民館が出来ることよって、フランスの取れたコミュニティの場が来年3月にはお目見えになる予定です。

今後、現公民館も耐震強化改築整備をし、2年後には避難所機能を兼ね備えた二つの公民館が出来ます。小屋町会の皆さんの利用が活発になると楽しみにしています。



平田・木工町会による 友好マレットゴルフ大会が行われました

8月9日朝8時半から信州スカイパークマレットゴルフ場で各町会14名、計28名によりマレットゴルフ大会が行われました。

当日は連日の暑さの中でしたが、お昼頃までは比較的過ごしやすくプレーする事が出来ました。

各自いつも一緒にプレーしている仲間の様に町会を意識しないで、それぞれのチームパートナーとして友好の中でラウンドする事ができ、楽しい一時を過ごす事ができました。



芳川の今昔物語 第14話

旧芳川村役場

その昔...

明治21年4月1日町村制の施行により村井町村・小屋村・野溝村・平田村が合併して、芳川村が誕生した。大正13年に約7,000円を投じて役場庁舎が竣工し、12月に移る。周辺は桑畑が多く、手前の畑も桑の枝が伸びている。以後昭和51年に移転するまで、庁舎として使用された。

現在は...

旧芳川小学校の移転改築に伴い、校舎の一部を芳川公民館出張所に改装し、昭和51年9月に移転した。平成5年4月に現在地へ公民館出張所が移転改築されて、現在に至る。跡地は民間に売却されて、マンション等が建てられており、北西の隅に「芳川村役場」の石柱が残されている。



▲平成27年8月27日撮影



▲昭和2年撮影

たちばなし

子どもさんが楽しみにしている、夏祭りの様子を掲載する、予定していたところが、ほとんどの町会では、夏祭りが行われていないとのことでした。また

男の子の青山様、女の子のほんぼんが、何であるのかご存知ない人がいる、現実を知ることになりました▼幼いころの楽しかった思い出は、歳を追うごとに郷愁を誘うもので、懐かしさで心を満たしてくれるものです▼多くの皆さんに親しまれて歌われている、唱歌「ふるさと」の歌詞は、三番までですが、四番以降の作詞をしようという、試みがなされています。三番では、志を果たして、いつの日にか帰ろうと詠われて、それに続くので、終の棲家として、安心して住め、温かく迎え入れてくれる、母親のようなそんな故郷であって欲しいと、歳を重ねて思うものではないでしょうか。皆さん、徒然に考えてみるのも、如何がでしょうか▼町会が自分にとつて、懐かしくて近い存在ならば、必ずや故郷に戻りたいと、思ってくれるものです。幼い頃に経験した、楽しさは心に刻まれていて、お祭りは大切にしたいものです。